

雨の日のサンカヨウ

野の花と初対面という日が必ずあるわけだが、それを明確に記憶している花となると、そう多くはない。

鮮明に記憶に残っている花の一つがこのサンカヨウである。学生時代、友人と初めて白馬岳に登った時の事である。7月中旬頃であった。登山基地である白馬尻小屋からしばらく登った雪渓の際に、白い可憐な花があった。高山植物というものを全く知らなかった頃である。これが高山植物かと、しげしげと眺めていると、中年のご婦人が、「これはサンカヨウと言いますよ」と、丁寧に教えて頂いた。前面に大雪渓が聳え立つ立地で、まさに雪の女王の気品を漂わせて、我々を魅了したのである。

その十年後、同じ路を通勤路のように、大形カメラを担いで登る運命になろうとは、この時は想像すらし

ていなかった。

ある年、白馬連峰にある天狗山荘で同室になった、東京から来たという人と、植物の話で意気投合した。彼は、今回の目的の一つにサンカヨウとの出会いがあるという。太平洋側では見かけない、可憐な姿の花に、一度でいいから逢いたいと恋いこがれていた。結果めでたく対面を果たしたという。

その話の中に、サンカヨウの花は雨の中でガラスのように透き通るという。雨の日に花を見に行くという酔狂はなかなかないが、騙されたと思って雨の日に深山に分け入った事がある。その嘘のような話は本当であった。あまりにも薄く、壊れかけたガラスの様な姿は、世界で唯一無二の存在に思えた。



雨の日のサンカヨウ